日航のドーハ線27日まで欠航

■中東情勢悪化で主要ハブ一時停止

日本時間24日未明のイランによるカタールの米軍基地へのミサイル攻撃を受け、一時的に中東の主要ハブ空港がオペレーションを停止した。カタールでは一時的に空域が閉鎖され、カタール航空とドーハ・ハマド国際空港のオペレーションが停止。空域閉鎖解除後、グランドスタッフの追加配置を行い、対応を図った。アラブ首長

国連邦（UAE）のドバイ国際空港（DXB）では予防的に、一時オペレーションを停止したが、その後、全面的に再開している。

日本関連では日本航空が、カタールの空域閉鎖を受け、23日発のJL59便（羽田発ドーハ行き）について羽田へ引き返し、欠航とした。日航は、同便を含め27日のJL50便（ドーハ

発羽田行き）まで羽田―ドーハを8便欠航する。予約済みの貨物は、自社の欧州線への振り替えなどで輸送する。中東情勢を巡っては、イランとイスラエルの動向を踏まえた減便や運航ルート変更など相次いでいた。ただ、世界的なハブ空港のオペレーションに影響は出ていなかった。